

William Faulkner の求めたもの

—Sanctuary の残酷礼拝—

平 田 博 士

I

William Faulkner にとって現代社会は過去の退化物に見えたのだろう。この退化物の社会から人間回復を求めるのなら、まず人間のあらゆる「悪」や「善」を赤裸々に映しだすことである。現代社会はあらゆる過去と累積的かつ複合的に関連しあっているからだ。この退化社会の中で蠢く共同社会の人間たちは、自からの存在理由を求めて行動する。Faulkner は人間存在への深い内省と回想を通して、人間本来の故郷を回復する逃げ場として架空の町(Jefferson, Yoknapatawpha Country, Mississippi)の南北戦争(1861~1865)以前の農園貴族社会の世界の中に人間回復の秩序を見い出している。南北戦争以後の南部は「南部人の忍耐の限界を越えたのは、民主主義の名で計画的に組織的に遂行された屈辱を、誇り高い彼らが味う羽目になったことである。南部人は多分それ以前から個人の名誉と自尊心という感覚の発達を極度に重要視していた。敗北と荒廃の中であって、その感覚だけが人生の生甲斐として彼らに残されたものであった。」¹と新しい社会の中で南部人は、自からの生甲斐を過去の道徳的精神の中に見つけ、じっと心の奥深くこの精神を持って生きて行く。Faulkner の諸作品の中心的テーマもこの屈辱に耐える南部人の姿と苦悩から出発しているために非合理的

1. G. ゴーラー著、星 新蔵・志賀謙共訳『アメリカ人の性格』(北星堂書店、昭和51年)、p. 268.

精神の混乱が生じている。耐えて苦悩する人物こそ南部の歴史性を一身に受け止めている「よい」人であり、南北戦争以後特に金融資本主義と機械的という時代性を一身に受け止めて侵入したのは「わるい」人として、作品中に表われる。歴史性と時代性の対立の中に Faulkner の思想原理が見られるが、彼の究竟原理は登場人物の心の動きであり、固定した場所の変化である。彼の思想を導く根本原理を彼が南部共同体社会の神話の地に登場させたために、S. Finkelstein は「かつて存在したことの無い国民の神話にもとづく、毒気に満ちたナショナリズムである。」²と捕える、が Faulkner は単に南部共同体社会の内部の夢、野卑な行動、言葉にかかわったのではなく、自分の世界に倫理的感覚を持って心理的に関わり、その問題に専念した。単にこの社会を、「毒気に満ちたナショナリズム」として受け取るのではなく、この固定した場所の中で作中人物の意識が時間の中を移動し、過去の背後に意識を後退させる心の動きのある人物と現代を背後に感じさせ、固定した場所を変化させる本能的人物が存在していると受け取るべきだ。

C. E. Magny は Faulkner の現在について次のように述べ「現在というものは過去のある一片の未来にすぎない。それは真の過去とくらべれば、見すばらしく、変色したものであり、真の過去に対して自衛する力もまったくないものだ。現在の時間を生きつつあるはずの主人公の意識のなかにあいてさえも、現在は後になってはじめて現われる。……その現在が今度は過去になり、あの過去のもつ歴大な不動性を獲得する。」³と現在そのものをも過去と捕え、過去が大きく現在を覆って来るが、それは眠り

-
2. S. Finkelstein, 永原誠訳『実存主義とアメリカ文学』（紀伊国屋書店, 1967), p. 190.
 3. C. E. Magny, 篠原一士訳「フォークナーもしくは神学的転置」、『フォークナー・ヘミングウェイ』（『世界文学大系』61巻, 筑摩書房, 昭和34年), p. 438.

からさめてぼんやり周囲が意識された位いの状態である。そこには過去が有という程度である。過去はしだいに大きくなり、現在の中で一つの存在理由を発見する。これを表わすために Faulkner は作品における人物の現在と過去の間を意識の絆で結ぶために、*The Sound and the Fury*(1929)の三人の主要人物 (Quentin, Benjy, Jason) の「意識の流れ」あるいは「内的独白」の文体を使用していることは、多くの批評家が指摘する通りである。そして Cowley は Faulkner の求めた他の面について、

Faulkner's novels of contemporary South life-especially these written before 1945—continue the legend into a period that regends as one of moral confusion and social decay. He is continually seeking in them for violent images to convey his sense of outrage.⁽⁴⁾

と述べる。即ち、Faulkner は暴力的イメージを探し続けているのだと述べるが、これらの作品に表われる人物は、現代を背後に感じさせ固定した場所を変化させる本能的人物であり、無道徳で意識の深まりのない合理的な時代性を持った人物である。

Faulkner は過去の背後に意識を固定した人物と 現代を背後に固定した場所の変化を起した人物を描いたと言える。そして Faulkner は、

I would say that the writer has three sources, imagination, observation and experience.⁽⁵⁾

を小説創作の三つの重要な要素と指摘し、それを実験したのである。彼の小説の外延は旧南部から新南部へ変る時代の変化と場所の変化であり、この外延を観察、経験、想像で書き、その内包を諸作品中の人物の意識、行為、時間性という三つの要素を持って書き上げている。したがって、全て

4. Malcolm Cowley (ed.), "Introduction," *The Portable Faulkner*. (New York: The Viking Press, 1967), xxii.

5. Frederick L. Gwynn and Joseph L. Blotner (ed.), *Faulkner in the University* (New York: Vintage Book, 1959), p. 103.

の作品に共通の場として、自から生れ育った南部を受け入れ、その中で起こる人物の意識や行為を自分の想像でき得るあらゆる方法を用いて書いたのである。Peter Swiggert は Faulkner の小説創作において、観察、経験、想像から創造した神話の地の不変的道德感を認めながらも、その地の内部の人物を自由に描いていることについて、

The romancer's emphasis upon man's unchanging moral nature, in contrast to changing environments, free him from the obligation to give a realistic account of social appearance.⁶

と述べる。⁶

「不変的道德」と「暴力的イメージ」を背負っている合い反する作中人物を Faulkner が書き上げたのは「人間の生活にも＜同化＞と＜異化＞が考えられなからうか、とフロイトは想像するのである。快を求め不快を避けてゆく性的衝動を＜同化＞として、単に以前の状態に戻ろうとする傾向を＜異化＞に対応するとみなすことはできないであろうか。」⁷ という思考があったと思える。＜同化＞と＜異化＞という生物体内で起る二つの化学変化を彼の作品中に見て取れる。二つの化学変化は一つの物体内部で起るものであるから「不変的道德」と「暴力的イメージ」と言う反する人物が作品中に表われても、その母体は一つである。即ち、フロイトは攻撃は自殺の裏返しだと仮定し、自殺の傾向をもつ人間が、この傾向を外部に向けたのが攻撃だとするのである。Faulkner は二人の合い反する人物を描いたが、意識の内部に深く入り込む人物も、全く逆の行為を行なう人物も、生物の化学変化と同様に一つの体内に存在するのである。合い反する人物は作品中で Faulkner が創造した神話の地で脱自的な行為や意識を持って

6. Peter Swiggert, "Faulkner as Romancer," *The Art of Faulkner's Novels* (Austin: University of Texas Press, 1967), p. 74.

7. 宮城音弥著、『精神分析入門』（岩波書店、昭和38年）、p. 157.

自己から超出するように自由自在に意識の深みの中で回想し自からの存在を見つけ出している。ここに Faulkner の世界と宇宙が開け、作品を創造させたのである。

II

Faulkner の描く人物は自からの運命の手中深く入り込み、その場から脱出できないままに運命を凝視し、まるで社会全体が恐怖で満ちているかのようである。Robert Humphrey は「人生の滅びゆく相を見つめていることの悲劇、現実性を失ってゆく物象から人間を引き離そうとする心の空しい足掻き」⁸ と述べて、Faulkner 作品の主題を探らえる。A *Rose for Emily* (1930) の主人公(Miss. Emily) は固くなまでに旧南部を守って、'Nobless oblige' を強張するが、進み行く金融資本主義という新しい南部に勝つこともできずに動かぬ固定した過去の意識のままに自から体を新南部に晒すことなく死をとげるという悲劇性を体現していると言えよう。Robert Humphrey が指摘するように、Miss. Emily の行動は「人生の滅びゆく相を見つめている。」である。このような人物で Miss. Emily より以上に深く過去の意識の中に沈む人物として *The Sound and the Fury* の Quentin は意識を後退させて過去の中に入り込み、

I was, but I am not.⁹

と述べる。彼は過去の退化物である現代に生まれ育ちながらも旧南部の道徳的精神から脱出できないままに歴史性を一身に受けて、苦悩する人物である。彼の意識が深まれば深まる程、不動的実在の過去へと速度を速め、

8. Robert Humphrey, 石田幸太郎訳『現代の小説と意識の流れ』(英宝社, 昭和47年), pp. 39-40.

9. William Faulkner, *The Sound and the Fury* (London: Chatto & Windus, 1929), p. 173.

非連続的固定した永遠不滅で不変化の中に意識を向わせる。Miss. Emilyの場合には、このような苦悩はない。だが、二人とも旧南部の「滅びゆく相を見つめている。」人物である。

旧南部の歴史性とは直接関係はないが、自からの出生の秘密を負わされて反社会的に生きる *Light in August* (1932) の Joe Christmas の場合は旧南部の歴史性の苦悩を背後に感ずるのではなく、

He knew that he would never know what he was, and his only salvation in order to live with himself was to repudiate mankind, to live outside the human race. And he tried to do that but nobody would at him, the human race itself wouldn't let him. And I don't think he was bad, I think he was and would never know, and that to me is the most tragic condition that an individual can have to not know he was.⁽¹⁰⁾

と Faulkner 自身が述べるように、旧南部の歴史性より自分が何ものであるか解せない悲劇がある。そして O'Connor は次のように、

Thus Joe is denied a system of rules and sanctions administered with love. For the rest of his life he refuses to give affection or to receive it.⁽¹¹⁾

と述べる。確かに、Joe は自分の過去の血への不安から不道德な行為を行なうが、南部自身の内部に蠢く恐怖が彼を射殺という行為へと走らせる。「南部を覆っているのは恐怖の重圧である。白人の政治的、社会的生活の大部分は、彼らの心配の種である北部人や黒人の手による屈辱をどう避けるかに当てられている。彼らは不信感に満ちて……彼らは暴行される恐怖

10. Gwynn & Blotner, *op. cit.*, p. 118.

11. William Van O'Connor, notes by Kenzaburo Ohashi, *William Faulkner* (Tokyo: The Kenkyusha Press, 1961), pp. 21-22.

に付きまといわれている。彼らの頭にあるのは主としてもっとも荒っぽい肉体的な暴行であるが、それ以上に恐れているのは、それに次いで発生する精神的暴行であろう。この暴力に押しつぶされることにおびえ、彼らはこの災難を防ぐために暴力を使うが、使うぞと言って威かくする。」⁽¹²⁾ と、南部の現在の不安と Joe の恐怖心は一致をなしている。即ち、死はどんな生き方をしても訪れるものであるという絶望の淵に投げ入れられた南部は「滅びゆく相」という自殺へと向う傾向があり、Joe はその裏返しとしての暴力行為「不道徳行為」を行なうのである。フロイトの自殺と暴力行為の関係を示している。Joe も南部も精神的不安による暴力から出発している。この精神的不安を振りはらうために暴力に走るという一致をなしている。この不安から自暴自棄になる人物として、Faulkner の初期の作品で後の一連の作品 (The Yoknapatawpha saga) の第一作である *Satoris* (1929) の Bayard Satoris の場合がそうである。彼には *Satoris* 家の代々流れている野蛮で暴力的な血がある。

The Unvanquished (1938) の *Satoris* の場合には南北戦争から戦後にかけての壮烈な行為が示されている。*Satoris* 家に流れる狂暴野蛮な血は、どすくろく渦巻いて流れている。Faulkner 作品の中で *Satoris* は南部の代表的貴族主義を余す事なく一身に受けているが、南部の罪業に対する犠牲者でもある。南部の罪業は「南部は北部の資本と同様、金を儲けようと思っていたからだ、彼らは一方ではたやすく売ることのできる作物を、他方ではこの作物をつくる特殊な労働を所有していた。そこで自然の結果として、植栽農園制度が発達したのだ。」⁽¹³⁾ この植栽農園制度そのものが、奴隷制度を発展させる結果となった。この植栽農園貴族たちは、あらゆる

12. G. ゴーラー著、星新蔵・志賀謙共訳、前掲同書、p. 271.

13. レオ・ヒューバーマン著、小林良正・雪山慶正訳「農業の南部」、『アメリカ人民の歴史』(東京：岩波書店、昭和40年6月15日)、p. 233.

悪をこの制度の中に沈め込んだ。そして自分たちの金儲けにと忙がしかった。

Bayard Satoris は第一次大戦の無暴な空中戦で撃墜された弟の死の後に悔恨にさいなまれて一直線に死へと向う，ここに南部自身の苦悩と過去の罪業の贖いから「不道德行為」によって自からの血の呪いからの回復を求める。自殺的行為による死亡が Bayard の「血の呪い」からの回復，南部の犠牲的死とみるべきである。

Faulkner は作品に何人かの人物 Miss. Emily, Quentin, Bayard という南部の過去を背負って不変的道德精神を持った人物と Joe のように南部自身の罪業からの苦悩ではなく，自分の血の秘密から来る不安から暴力的になって行く人物を示した。どちらも彼らが生れ育ったのは南部である。同じ母体に，合い反する暴力が存在している。そこに蠢く人物の精神状態は，南部自身の苦悩する精神状態であり，「悪」も「善」も母体は同じで，過去から出発した非道德観は，どちらの上にも大きく育ち，彼らの上に覆い被さって来る。この過去から抜け出るために苦悩し続け，不安の中に深く入り込んでいる。

III

南部の古い道德観を持ったアメリカ人の姿とは，全く異なり現代の機械主義，規格化，大量生産というアメリカ人に矯正された *Sanctuary* の主人公(Popeye)については，二通りの解釈がなされている。Malcolm Cowley は，

Popeye himself is one of several characters in Faulkner's novels who represent the mechanical civilization that has invaded and conquered the South.⁽¹⁴⁾

14. Malcolm Cowley, *op. cit.*, xxii.

と述べる。Frederick J. Hoffman は「あの現代悪の大悪魔」⁽¹⁵⁾ そして William Van O'Connor はもっと厳しく、

Popeye is sometimes said to represent Amoral Mordernism.⁽¹⁶⁾

といったぐあいでは、Popeye は「現代社会の悪の化身」と受け取られている。Edmond L. Volpe はしぶしぶであるが、Popeye に対して、

Why does Faulkner want to bring us close to this man, even make us feel a reluctant sympathy for a corn-cob rapist and a killer, who, born on christmas day, await his death with such apparent heroic calm?⁽¹⁷⁾

とある程度の同情を示している。

Sanctuary の Popeye に対しては手厳しい評論、研究が数多くある。だが、彼の容姿とは、

He save, facing him across the spring, a man of under size his hands in his coat pockets, cigarette slanted from his chin. His suit was black, with a tight, high-waisted coat. His trousers were rolled once and caked with mud above mud-caked shoes. His face had a queer, bloodless colour, as though seen by electric light; against the sunny silence, in his slanted straw hat and his slighthly akimbo arms, he had that vicious depthless quality of stam tin.⁽¹⁸⁾

と、新しいアメリカ人に矯正されており、自からを保持するためには、あ

15. Frederick J. Hoffman, 高村勝治・大橋健三郎共訳「1930年代における暴力と修辞」、『アメリカの現代小説』（評論社、昭和46年6月）、p. 235.

16. William Van O'conner, *op. cit.*, p. 19.

17. Edmond L. Volpe, "The Novels," *A Reader's Guide to William Faulkner* (New York: The Noonday Press, 1970), p. 149.

18. William Faulkner, *Sanctuary* (Great Britain: Penguin Books, 1965), p. 5.

らゆる手段を持ってあたらねばならない。いわゆる、現代の機械文明を一身に受け止め、非道徳な人物としての容姿である。彼の容姿は確かに現代を背後に感じさせる人物であるが、彼の姿からはまず一般の人間の容姿を想像できない。生まれも、父親はストライキ破りを商売して流れ歩く男で、母親は下宿屋の娘であった。そして祖母は気違いのようで放火癖があるが Popeye を可愛いがる。Popeye の体は五歳になっても普通より背が低く、体の弱い子供で医者から次のような注意を受けていた。

‘Alcohol would kill him like strychnine,’ the doctor said. ‘And he will never be a man, properly speaking with care, he will live some time longer. But he will never be any older than he is now.’⁽¹⁹⁾

と作品中に示されるように、一般的男性機能に欠けており、摂生食を怠ると痙攣を引き起こすという体で酒は一滴も飲めない人間である。しかも容姿は、

His face had a queer, bloodless colour, as though seen by electric light: against the sunny silence, in his slanted straw hat and his slightly akimbo arms, he had that vicious depthless quality of stamped tin.⁽²⁰⁾

Popey’s eyes looked liked rubber knobs, like they’d give to tough and then recover with the whorled smudge of the thumb on them.

⁽²¹⁾

で、どの角度から見ても人間の容姿は見うけられない。Popeye の姿に対する評論、研究は非常に多く、多彩な解釈が行なわれている。蟻二郎は「私

19. *Ibid.*, p. 246.

20. *Ibid.*, p. 5.

21. *Ibid.*, p. 7.

がポパイの描写からまず受けた印象は、袍子という灰色の長い上衣を着、小股で前かがみにちょこちょこ歩くために、遠距離からでもそれとわかるほど特徴的な宦官の退化した容姿であった。」⁽²²⁾と Popeye を性的退化の極限相として捕える。Cowley はアメリカ社会の時代性を彼に背負わせて、

……, he (Popeye) was a compendium of all the hateful qualities that Faulkner assigns to finance capitalism.⁽²³⁾

と述べ、この機械化した社会ゆえに Popeye は生きて行けるのであり、一般的人間の姿のない生活から出発させている。だが、Faulkner はもっと Popeye に対して同情を示している。彼の容姿や男性機能の欠如は、生まれと環境から生じたものである。退化社会の中で生きるためには退化した人間の容姿が必要であり、Faulkner は退化社会の人間に対して、一つの注意を促がしている。機械文明化の進んだ社会の中で生活をする人間の姿は、Popeye のようにすべての面で退化することによって強力な生命力を保持することができる。そして退化社会の内部で一つの生得権を持ち得る。しかも、この社会内部で存在理由を発見しようとしている。

私は Popeye の退化した容姿の描写から悲劇的な人物という印象を受けた。生まれながらの姿、自からの生命を守るための努力、精神的弱さ、

I be a dog if he ain't the skeeriest white man I ever see' Tommy said. 'Here he was comin' up the path to the porch and that ere dog come out from under the house and went up and sniffed his heels, like are a dog will, and I be dog if he didn't flinch off like it was a moccasion and him barefoot, and whupped out that little orterm-

22. 蟻二郎著、「＜種族去勢＞と＜不能＞」、『フォークナーの小説群』（南雲堂、昭和41年11月5日）、p. 103.

23. Malcolm Cowley, *op. cit.*, xxii.

tic pistol and shot it dead as a door-nail. I be dum if he didn't.⁽²⁴⁾

と、あらゆる事柄に恐怖を感じている。彼の容姿は、どの角度から取っても一般的人間と異なる。退化し矯正された人間の悲劇から来る生き方、それは自分の生命を守るために暴力行為を行なう姿に、ある種の生命保持のための掻きを感じるし、同情せざるを得ない。

Faulkner はこの作品の書き出しで、まるで現代社会を感じさせない、物静かであるが陰鬱で暗く弱々しい場面を設定し深南部を感じさせている。Popeye によって単に現代社会のあの毒々しさを書き上げたのではなく、新しい社会の機械文明化によって矯正された人物の弱さを表わしている。恐るべき集団化、規格化、個性の抹殺が行なわれる社会の中であって、存在理由を追求することは難かしい。個人の存在をのみこんでしまう社会の中で存在をより明確にするために弱い心を暴力で覆い隠くしている。頽廢した非合理的な道のない世界であって、屈することなく生きつづけ、自己の存在をより明確で根拠のあるものとし、制約を受ける自己の道に対して一つの足跡を残そうとしている。

Popeye の背後に感ずるあの暗い影は、彼の生れと容姿、社会的背景と自己防衛から生じる暴力、自己を歴史的に社会と関わらずに遊離した独立的自主的人格を主張するために起きている。彼は歴史的社會とは直接的な関わりを持つことなく、現代的社会の進歩と時代的関わりを持っている。したがって、彼は歴史的社會の中にある深南部にあっては、非道德的惡を体現しているが、現代社会の恐怖感と頽廢を感じさせる。この社会内部は複雑になり自己の個性は失なわれ、抜け出る道も見つからず、ただ掻き底しれぬ穴の中に、ますます深く入って行く。彼の暴力は、この穴から抜け出るために、そして自己の生れのどうにも仕方無い運命の手から解き放されるようにと使用されている。

24. William Faulkner, *Sanctuary*, *op. cit.*, p. 18.

彼の生れた姿は、

Popeye might well have been dead. He has no hair at all until he was five years old, by which time he was already a kind of day pupil at an institution: an undersized, weak child with a stomach so delicate that the slightest deviation from a strict regimen fixed for him by the doctor would throw him into convulsion.⁽²⁵⁾

とまるで生命力はない。彼は自から生命を確認するかのよう、パーティーを開いてくれた日に逃げて、

On the floor lay a wicker cage in which two lovebirds; lived; beside it lay the birds themselves, and the bloody scissors with which he had cut them up alive.

Three month later, at the instigation of a neighbour of his mother, Popeye was arrested and sent to a home for incorrigible children. He had cut up a half-grown kitten the same way.⁽²⁶⁾

と他を犠牲にして自分の生きていることを確認する。このように、Popeyeの暴力行為は、自分の生まれた容姿から来ている。しかも、彼が生きていることを確認しようとすればする程、彼の暴力行為と不道德行為は激しくなる。彼の行為は生れから生じた本能的人物として考えるべきで、本質的には弱く、愛情をも持っている。

Each summer Popeye went to see his mother.⁽²⁷⁾

と母親に対しては、愛情を持った行動を取っており、弱い人間としての彼の心と行為は、作品中に次のように示される。

Then something; a shadow shaped with speech, stooped at them

25. *Ibid.*, p. 246.

26. *Loc. cit.*,

27. *Ibid.*, p. 241.

and on, leaving a rush of air upon their very faces, on a soundless feathering of taut wings,⁽²⁸⁾

と、まるで子供のように回りの雰囲気恐怖を感じている。この恐怖心を隠すために自分の非道徳行為で回りの人々に恐怖を感じさせるような仕ぐさと雰囲気を醸し出すのである。

Popeye の非道徳行為は生まれから来るものである。男性機能の欠如である彼は密造酒業者の家で不良女子学生の Temple を強姦するのであるが、機能の退化している彼は彼女を犯すために 'Corn' を使用したのである。

The District Attorney faced jury. 'I offer as evidence this object which was found at the scene of the crime.' He held in his hand a corn-cob. It appeared to have been dipped in dark brownish paint.⁽²⁹⁾

と、作品中にはその状況が示されている。

不良学生 Temple は Gowan Stevens と一緒に車に乗っていると Old Frenchman Place の近くの道で車を木にぶつけ、Popeye と Tommy に密造業者の家に連れて行かれる。Gowan は、この家でさんざんな目に会った後に Temple を残したままで逃げてしまう。Popeye は Temple を強姦する機会を待っているが邪魔者の Tommy を射殺し、Temple を強姦するのである。殺人の罪を密造酒仲間の Lee Goodwin に着せて、Popeye は Temple を連れて Memphis の売春宿に行く。Tommy を殺す根拠は、Popeye には全くない。ただ、Temple を犯すのに側には邪魔というだけである。Popeye は Memphis で Temple と一緒に暮すが、

Then he was standing over and she was saying come on. Touch

28. *Ibid.*, p. 8.

29. *Ibid.*, p. 226.

me. Touch me! You're coward if you don't Coward! Coward!⁽³⁰⁾
と、彼は触れることもできない。したがって、彼は、

Then one morning he come in with Red took him up there.
They stayed about an hour and left, and Popeye didn't show up
again till next morning. Then him and Red come back and stayed
up there about an hour, when they left, Minnie come and told me
what was going on, so next day I waited for them. I call him in
here and I says, "Look here, you son of a buh—" She ceased.⁽³¹⁾

と、彼女に恋人を与える。恋人との行為を、彼はただ見ているだけである。彼女が恋人 (Red) に心を奪われ始めると、彼は Red に対しても敵意をいだき殺してしまう。数え上げれば、いくらでも Popeye の悪業は出て来るが、これらの非道徳行為も彼の生まれながらに持っている男性機能欠如から出たものである。

愛のない人物と思われる Popeye も母親に対しては、愛を持っていた。だが、自分の生命保持のためには、彼にとっては愛は不必要であった。愛を持っていたために、

While on his way to Pensacola to visit his mother, Popeye was
arrested in Birmingham for the murder of a policeman in a small
Alabama town on June 17 that year.⁽³²⁾

と、運命とは非常に皮肉なものである。悪を体現している時は、自からの生命は保持できるが、愛を示すと自からの生命を危機にさらすのである。ここに Faulkner 文学の皮肉と運命がある。

Popeye の運命は、自分の過去の生れから出発し、まるで影のように背後についており、その影は大きく彼の心を覆い、ますます大きくなって来

30. *Ibid.*, pp. 173-174.

31. *Ibid.*, p. 205.

32. *Ibid.*, p. 8.

る。回りの仲間たちはその影を知っている。Tommy は Popeye について

But' twarn't no stoppin' him. I be dog if he ain it skeered of
his own shadow.⁽³³⁾

と述べて、Popeye の影を指摘するが、この影を作り上げたのは、やはり生れから来る。彼の容姿に生まれの影が落ちており、作り上げられた人物は、まるで化け物のようで、この影から抜け出るために自から本能をまるだしにする。彼の本能的行為は無気味である。Faulkner は何度も彼の容姿を作品の初めに明らかにするが、容姿が繰り返えされればされる程、鮮明になってくる。

He squatted in his tight black suit, his right-hand coat pocket sagging compactly against his blank, twisting and pinching cigarettes in his little, doll-like hand, spitting into the spring. His skin had a dead, dark pallor. His nose was faintly aquiline, and he had no chin at all. His face just went away, like the face of a wax doll set too near a hot fire and forgotten.⁽³⁴⁾

と、彼の容姿は異様な雰囲気醸し出している。Faulkner 自身 Popeye について、

He became a symbol of evil in mordern society only by coincidence but I was still writing about people, not about idea, not about symbols.⁽³⁵⁾

と、単に共同社会の人物として書いたが、偶然に「悪の化身」となったとしている。Faulkner は Popeye の少年時代を最終章で語ることで、彼への深い同情と悲劇的人物の哀れさに悲しみを持って語るのである。だが、この章に対して O'connor は、

33. *Ibid.*, p. 19.

34. *Ibid.*, pp. 6-7.

35. Gwynn & Blotner, *op. cit.*, p. 74.

Oddly, near the end of the story, Faulkner attempts to account for him psychologically and naturalistically, by recounting popeye's childhood, thereby destroying some of his effectiveness as a symbol of amoral modernism.⁽³⁶⁾

と、手厳しく論批している。

IV

Faulkner は、*Faulkner in University* で Popeye について語るように、偶然に彼は「悪の化身」となったのである。即ち、人間の存在は過去の身に起きた事柄が、人間の存在をある一定方向に向わせる。過去の上に乗っている人間の姿は、偶然に起きた過去の事件や状況から出来たもので、人間は、過去を背負って逃げることはできない。存在忘却、故郷喪失という心理的なことはあるが、人間は、それぞれの作り上げられた容姿からは、逃げることはできない。この容姿は過去に出来たもので、人間の過去を語るものである。*Sanctuary* の第 1 章で Popeye の容姿を語り、第 32 章で彼の生まれた環境、少年時代の姿を語ることで、Faulkner は、彼がどんなに「悪の化身」となろうと、深い愛情を注いでいる。

Faulkner がノーベル文学賞受賞演説において、人間について次のように語る。

It is his privilege to help man endure by lifting his heart, by reminding him of the courage and honor and pride and compassion and pity and sacrifice which have been the glory of his past.⁽³⁷⁾

36. William Van O'connor, *op. cit.*, p. 19.

37. Morton W. Bloomfield (ed.), "Faulkner William," *Form and Idea* (New York: The Macmillan Company, 1954), p. 262.

と、人間はどんなことがあろうとも耐えることによって、「勝利する」という Faulkner の根本原理として Popeye を考えて見ると、彼の少年時代、生れた容姿を語ることによって、彼に対する同情を示し得ている。Faulkner は自分の作品について、多くを語るが、彼の本質的思考原理は、あくまでも深い人間愛である。作品中の登場人物に自から運命を凝視させ、その運命の深みの中に入って行き、運命に目的があろうと、なかろうと全体を凝視させることによって、作品は驚くべき運命を内蔵してきている。

Popeye もやはり Faulkner という魔術師によって、骨の髄までもさらけ出されている。彼は 現代を背後に感じさせる人物であり、「悪の化身」であるが、彼は Faulkner によって運命づけられている。「悪」は自己自身の苦悩であり、人間に対して敵対的である。Faulkner は「悪」を運命的で必然的なものと認識している。人間社会である南部共同社会の中でも、非道徳的悪や時代的悪が発生し、歴史性の中で生活する深南部に大きな変化をもたらす。南部自身の持っている歴史的悪は、時代的悪と一体となり、不変的南部の道德観を支配し変化を起させる。これらの「悪」は必然的で、母体は一つである。 *The Sound and the Fury* の Quentin, *Satoris* の Bayard Satoris, *A Rose for Emily* の Emily という人物たちは、過去の背後に意識を後退させ「人生の滅びゆく相を見つめている」のであり、南部の歴史性の上に自からの生命を保持し得ている。彼らの生命は、不変的南部の道德観の中に深く入って行く。この道德観が崩れ始めると、歴史性は彼らを支配し意識の深みの中で身動き出さずに、自からの生命を断つのである。 *Light in August* の Joe Christmas, *Sanctuary* の Popeye は、どちらも「悪」を体現し、本能的人物で時代性の上に自からの生命を保持し、非道徳な行為によって、生命を保持するために暴力に走り、暴力によって生命を確認するのである。自からの生命を守るために暴力的になるが、いったん愛を現わすと、生命は危機にさらされ、死「自殺的行為」へと真

すぐに落ちて行く、彼らは自からの生命が断たれようとしても、自からの生命を守ろうとも弁護しようもしない。

Faulkner の作品に登場する人物は、自からの生命保持のために意識の深みに入り、そこから抜け出せないでいる。そして、暴力に走り「悪」を体現し、ますます非道徳的になる人物とがいる。即ち、人間は一定の方向が決定すると、その方向に向って真すぐに行動するのであり、生れ育った環境、容姿そして自からに背負わされている歴史性や時代性の中で生きねばならない。このように、Faulkner のテーマは人間は、この決められた状況から抜け出せないで掻き苦悩するのである。このように、二つのタイプの人間が、作品中に表われるが、どちらのタイプも死へと向っている。どちらも生から死へと向う状態は異なるが、自から生れ育った場は同一である。死へ向う姿は、どちらも絶望的で絶望の淵から抜け出ることもできずに、死を自からの背に負って生きている。絶望の淵に立たされ、自からの運命を凝視し、最終目標として、死を選ばねばならない人間は、どうしても、この淵から抜け出ることはできない。これこそ Faulkner 作品に表われる残酷があり。Popeye もこの淵に立たされているのである。